

中国語「主述述語文」とその教え方に関する一考察

楊 志 剛

まえがき

主述述語文とは、主述構造が述語の主要な成分となる文であると定義されている。(北京語言学院編「新中国語」, 1980) 中国語の主述述語文のタイプを見ると、述語の成分によって分類されていることが多い。胡裕樹の「現代汉语」(修订版, 1991)では「述語の成分からみると、動詞的述語文、形容詞的述語文、名詞的述語文に分けることができる。…よって、主述述語文も動詞文(这些事他都知道。)、形容詞文(他家一向客人多。)、名詞文(这种菜一毛钱一斤。))に分類しなければならない」と述べている。同じように、黎錦熙(「变式句的图解」, 1953)は「这个意思我懂。」を例として挙げ、『「这个意思」は主語であり、「我懂」はこの主語を説明する述語である』としている。それに対して、王力は(「主語的定义极其在汉语中的应用」, 1956)『「这个意思我懂。」は「倒装句」であり、目的語を前置している』と主張している。さらに丁声樹(「現代汉语语法讲话」, p25)は、『その文は主述述語文であると考えられるが、意味的には、主語は主述述語の「受事」である』と述べている。

単文だけから見ると、特に動詞が主述構造になる場合は、大河内康憲が「日中対照文法論—主語及びそれとかかわる問題」の中で指摘したように、中国語の動詞文の主語(厳密には主語のところにくる名詞)は動作の主体でないものが多く、そのため中国語の主語についての見方の違いにより、また別の異なった見解が生まれる原因となっていると考えられる。

一方、現在中国の大学で使われている教科書をみると、張静氏が主編した「新編現代汉语」(1986)では、「主述成分の述語は動詞的なものであるから、文全体は動詞述語文に属しているはずである。」としており、主述述語文は取り上げていない。劉月華が主編した外国人向けの文法書である「实用現代汉语语法」(1983)においても、主述述語文を動詞述語文の一種に分類している。

日本で出版された幾つかの中国語教科書を見ても、文法的には単文しか扱われていないか、導入の順序としては「単文→複合文」のように教えているのが殆どであって、意味的にも「～は…がどのようだ」(「中国語さらなる一歩」竹島金吾, 1998)のような形容詞文が多く見られる。

かつて私の小アンケートで、「我们大学留学生很多。」という文を「私達の大学の留学生が多い。」と訳したものが多くあった。この原因は先に述べたような指導によるもの、つまり大主語と小主語との関係に対する理解が不十分であったからではないかと思われる。さらに「他们俩一个在上海工作, 一个在北京工作。」という文を「彼ら二人の一人は、上海で働いていて、もう一人は、北京で働いています。」として、「～は…がどのようだ」といった文型を使わないのが普通であることも分かった。

私は主述述語文を考える場合、さらに教える順序を決めるときにはその代表的なタイプ、後に述べるような複合文の形や意味をも検討しておかなければならないと考える。

主述述語文を文法的な形から一般化すれば、次のタイプとなる。尚、本研究ノートでは、文全体の主語を「大主語」と呼び、S(大)で表記し、述語に含む主語を「小主語」と呼び、S(小)

で表記し、述語をPで表記することにする。

主述述語文のタイプ

タイプ（1）は、大主語に対して小主語は一つがあり、大主語の一つの側面を述べている形である。

S (大)	述語 (P)	
	S (小)	述語 (P)

(1) 我们学校留学生很多。 (「新中国語1」)

我们学校 (大) 留学生 (小) 很多 (P)

タイプ（2・1）は、二つ以上の小主語があり、その小主語は大主語に対して幾つかの側面を述べている形である。

S (大)	述語 (P)	
	S (小1)	述語 (P1)
	S (小2)	述語 (P2)
	S (小3)	述語 (P3)

(2) 龙年新春，万象更新，佳节即至，皓月当空。

(2001. 2. 中央テレビ放送ナレーション詞)

龙年新春 万象 (小1) 更新 (P1)
 佳节 (小2) 即至 (P2)
 皓月 (小3) 当空 (P3)

タイプ（2・2）は小主語が二つ以上あるが、直接には大主語に繋がっているわけではなく、また大主語との間を他の成分が隔てているので、大主語と小主語との位置はある程度自由に離れている。

S (大)	述語など他の成分	
	述語 (P)	
	S (小1)	述語 (P1)
	S (小2)	述語 (P2)
	S (小3)	述語 (P3)

(3) 我一下子很窘，脸腾地涨红了，心怦怦地跳了起来，放在内衣口袋里的钱十元钱也缩紧了似的不动地靠着我。 (于德北「朋友」)

我 一下子很窘 (P)
 脸 (小1) 腾地涨红 (P1)
 心 (小2) 怦怦地跳了起来 (P2)
 钱 (小3) 靠着我 (P3)

タイプ（2・3）は、小主語が二つ以上あるが、小主語から構成されている主述構造はさらに、小小主語とその述語から構成され、小小主語と小主語全体で、大主語の側面を述べている。尚、次の例文にある述語の (P) の表示は省略する。

S (大)	述語 (P)	
	S (小1)	述語 (P1)
		S (小1.1) 述語 (P1.1)
		… …
	S (小2)	述語 (P2)
		S (小2.1) 述語 (P2.1)
	…	… …

(4) 一个荒凉的小村庄，几户人家，疏疏点点，象零落的星星，低矮的小屋，戴着薄薄的雪帽。村头上站着几株老榆树，瑟瑟发抖，光秃的残枝，连一只寒鸦都不肯栖息。靠村边，有一个更小的泥屋，就象童话《白雪公主》中那些小矮人住的房子。它的前边是一盘露天石碾，年深日久，碾盘上堆着厚厚的沙土和积雪，显得臃肿而孤独。村庄的远处，围着一条光带，那是一条河，河上结了薄冰，冰层下，流水的低吟细语也隐约可闻。

(丁宁「心中的画」)

村庄 (大) 几户人家 (小1) 疏疏点点

小屋 (小1.1) 戴着雪帽

村头上 (小2) 站立着老榆树

(老榆树 (小2.1)) 瑟瑟发抖

残枝 (小2.1.1)

寒鸦 (小2.2) 不栖息

靠村边 (小3) 泥屋

(泥屋) (小3.1) 象矮人住的房子

(前边 (小3.2)) 是石碾

碾盘上 (小3.2.1) 堆着土和雪

村庄远处 (小4) 围着光带

(光带 (小4.1)) 是河

河上 (小4.1.1) 结冰

冰层下 (小4.1.2)

低声细语 (小4.1.2.1) 可闻

以上の四つのタイプについて、私はタイプ (1) を単文と呼び、タイプ (2) 系列を複合文と呼んでおく。

主述述語文の特徴

タイプ (1) は主述述語の性質から、三つに分けることができる。

1 動詞的主述述語文 (5) 这件事大家都赞成。

2 形容詞的主述述語文 (6) 我们国家物价稳定。

3 名詞的主述述語文 (7) 这种布五毛一尺。

このうち動詞的主述述語文は、大主語と小主語との授受関係から、次のように二分できる。

1 大主語は対象であり、小主語は動作主である。

(8) 这些事他都知道。

2 大主語は動作主であり、小主語は対象である。

(9) 小王哪儿也不去。

この種の主述述語文は普通、指示代名詞や強調副詞「也・都」などによって、一般動詞述語文の目的語が前置されていると考えられる。

形容詞的主述述語文では小主語は大主語に属しているため、その間に限定助詞「的」を入れて、普通の形容詞述語文に言い換えることができる。しかし、そうすれば、タイプ(2)のように幾つかの小主語を繋げることができなくなるのである。

(10) 我们国家物价稳定。 → (10') 我们国家的物价(很)稳定。

一方、タイプ(2)系列の主述述語文は、タイプ(1)の述語の特徴を持ちながらも、さらに、A、一つの事柄に対して、いくつかの違う側面から描写、説明する。このような文の小主語は大主語の一部に属している。

(11) 女主人起身给我介绍说 老人是他父亲 今年已经九十四岁 身体却很健康 腰板挺挺的 精神还很好。 (王西彦「在麦卡尔镇上」)

この文では「家族関係」、「年齢」、「身体」、「体格」、「精神」などの側面から、老人の状況を説明しているのである。

B、一つの事柄に対して、いくつかの関連している部分を対比する。このような文では小主語は大主語の「子項」であり、小主語の「和」は大主語と等しい。

(12) 他们俩一个在上海工作, 一个在北京工作。

(13) 这个班的同学有的跳绳, 有的踢足球, 有的打篮球。

例文(12)は二人の仕事の場所が対で出現し、意味上では対比している。例文(13)はクラスメートの内容を具体的に列挙しながら、一部分一部分で対比しているのである。

以上のようにタイプ(1)の単文の場合は、小主語が一つであり、大主語に対して、一つの側面しか描写・説明していないので、例文(12)や例文(13)のように、対比する意味を表すのが不可能であると思われる。

(13'*) 这个班的同学有的跳绳。

しかも、タイプ(2・1)は、大主語と小主語の階層性を持ち、タイプ(2・2)や(2・3)とも共通する特性があり、後者は前者から派生した形であると考えられる。

以上述べたように、主述述語文のタイプの中では、タイプ(2・1)はもっとも代表的なものであると思われる。タイプ(2)系列の文は、一つの陳述対象に対して、その主述構造は連続して出現しているので、意味上においては自然的であり、一つの意味総体を構成しているのである。

主述述語文の指導について

張旺熹ら(「主谓谓语句结构的语义模式」, 1993)の統計によれば、現代中国語の散文に見られる主述述語文において、単文が8%しかないのに対して、複合文は92%強を占めているとのことである。

一方、教授学からみると、教育内容と順序を決める場合には高村泰雄(「物理教授法の研究」, 1987)と板倉聖宣(「仮説実験授業の研究論と組織論」, 1988)の考えがたいへん有益であると思われる。

高村は「科学的概念の形成の全過程にわたって、実体的なイメージの形成こそが、決定的な役

割を担っている。」とし、「真の意味の科学的概念は、実体的イメージを媒介にしてはじめて形成されるのである。」と述べている。その過程は「まず、教授目標として、生徒たちに形成すべき科学的概念や法則を設定し、その本質的構造を正しく全面的に担っている実体的イメージを構成する。」と述べている。

中国語の主述述語文において、その「本質的構造を正しく全面的に担っている」形は、大主語の幾つかの側面を説明し、且つ対比する意味も持っているタイプ(2・1)の主述述語文であると考えられる。

教育内容を決めた後、その教える順序に関して、板倉は、教育内容の導入において「第1問というのは、子どもたちのこれまでの常識的な考え方のまちがい、不充分さを明らかにして、新しい仮説の設定をうながし、学習動機を呼び起こすとともに、これからの学習の基礎になる確かな実験事実を提供するという役割をもっているものである。」と説明している。さらに「第2問の内容は、できることなら、第1問には含まれていない新しい条件を含んでいないような問題を取りあげた方がよいのである。」と述べている。

つまり「第1問としては、第2、第3問の場合をも含むようなできるだけ広い範囲を覆う問題を取り上げた方がよい。」と述べているのである。

以上述べてきたことから、中国語主述述語文を指導する際には、最初にタイプ(2・1)の複合文から導入すべきであると考えられる。

それは、主述述語文のタイプの中で一番代表的であり、且つ中国語学習者が間違いやすいものが、恐らくタイプ(2・1)だと考えられるからである。加えて、中国語学習者がそれに含まれる階層性や対比的な意味を理解できるレベルに達しているならば、タイプ(1)の単文とタイプ(2・2)や(2・3)の複雑性も理解できるであろうと思われる。

つまり、まずはタイプ(2・1)の問題を用いて、そのタイプに含まれている説明と対比の意味と、主述述語文の階層性を学生に理解させるように指導する。それは、中国語主述述語文全ての特徴を持っているものであると考えられるからである。

もし仮にタイプ(1)の単文から導入したとするならば、タイプ(2・1)複合文の階層性や対比する意味が理解できるようになることは期待しにくい。さらに、タイプ(2・2)や(2・3)を理解することも期待しにくい。つまり、現行の教科書にあるような単文の形から導入するよりも、タイプ(2・1)を先に教えたほうが効果的であるといえるだろう。

今まで述べてきた教育内容や順序を示すと以下の通りである。

	(ステップ)	(内容)
(I)	複合主述述語文(2・1)	→①主述述語文の意味(いくつかの側面) ②主述述語文の階層性
	↓	
(II)	主述述語文タイプ(1)	→①主述述語文と形容詞述語文 ②主述述語文と前置目的語
	↓	
(III)	タイプ(2・1)の復習	→階層性の再認識
	↓	
(IV)	タイプ(2・2)(2・3)	→①階層性の派生 ②大・小主語位置の自由度

具体的に説明すれば、ステップ(I)では、まず、タイプ(2・1)を導入する。その流れとしては、大主語(話題・述べる対象)を導入→話題に対して、いくつかの質問を出す→質問に答

える→複合文に纏まる→複合文の特徴を説明するのである。

你 (→我)	家	有几口人?	→	有四口人
	爸爸	是什么人?	→	是大夫
	妈妈	在哪儿 做什么?	→	在医院 上班
	哥哥	在哪儿 做什么?	→	在北京 工作
	弟弟	在哪儿 做什么?	→	在日本 留学

(14) 我家有四口人, 爸爸在大学教书, 妈妈在医院上班, 哥哥在北京工作, 弟弟在上海念书。

北京	人	怎么样?	→	人很多
	马路	宽不宽?	→	马路很宽
	公共汽车	挤不挤?	→	公共汽车很挤
	东西	贵不贵?	→	东西很便宜

(15) 北京人很多, 马路很宽, 公共汽车很挤, 东西很便宜。

ステップ (II) では、ステップ (I) を説明した上で、タイプ (1) はタイプ (2.1) から簡略化した文であることを説明する。

(15') 北京东西很便宜。

最後に、ステップ (III) とステップ (IV) については、授業時間の都合に合わせて、タイプ (2.1) に戻り、それかPPら派生したタイプ (2.2) や (2.3) を説明すれば良いだろう。